

余丁校通信



5月の生活目標

時間を守って行動しよう。

教育は一瞬にして永遠なり

副校長 伊東 孝司

頬をなでる風が爽やかに感じられるようになりました。子どもたちは毎日、学校で友達と仲良く勉強したり遊んだりしています。

先日のあかね苑では、和太鼓を発表し終えた子どもたちが、お年寄りの方に優しく寄り添い、太鼓を叩かせてあげる姿がとても印象的でした。今朝は、遅れて登校してきた1年生に、6年生がしゃがみながら優しく声を掛けている姿に心が温まりました。

余丁町小はそんな優しさや思いやりに溢れた、本当にすてきな学校です。赴任できたことを改めて幸せに思う今日この頃です。

さて、「教育は一瞬にして永遠なり」と言われます。これは私が若手の頃、先輩の先生から教わった言葉です。言わずもがな教師の一つ一つの言動、一挙手一投足が子どもたちにとって大きな影響力をもつという意味です。

私自身、小学1年生だったとき、夏休みの自由研究を頑張りと、担任の先生に「伊東君、すごいね！」と褒められたことがあまりにも嬉しく、今でも心に残っています。たった一言でしたが、その一言がその後の自分にとって大きな支えとなりました。

また、先日は私が20数年前に陸上競技を指導した教え子が訪ねてきました。そして、「俺、決勝で転んだとき、すごく悔しかったけど、そのとき伊東先生が立ってくれたのが一番嬉しかったんだ。ありがとう。」とってくれました。私も確かにあのとき、一瞬だけ涙を流し、その子と一緒に自校のテントに戻ったことを覚えています。何の言葉も掛けられませんでしたでしたが、その子はしっかりと私の思いを受け止めてくれていたのです。その子は今、小学校の教員になりました。

皆さんもきっと心の中に、同じような記憶があるのではないのでしょうか。新宿区教育委員会も「教師の仕事は、子どもたちのよりよい記憶をつくること」と述べています。また、柔道界では「教育に勝るものなし。教育は子から孫まで受け継がれ、百年先の国をつくる。」とも言われます。これからも一瞬一瞬を大切にしながら、教育の大切さをしっかりと認識し、頑張っていきます。

5月1日より、新たな特別支援教育推進員が配置されました。

皆様、どうぞよろしく申し上げます。

たてわり班活動について

特別活動部

たてわり班活動は、「児童一人一人が役割を担いながら集団に主体的に参加すること」「異年齢の交流活動を通し、他者と関わり合うことの喜びを感じとること」「高学年のリーダー性を育てること」をねらいとして活動しています。

朝のたてわり班活動では、6年生が事前に遊びを計画し、担当教諭と打ち合わせ、当日の進行を行います。遊ぶ場所は、校庭、体育館、ポケット広場、屋上、教室を順番に使っていきます。

5月1日の結団式でたてわり班メンバーの顔合わせを行い、一年間の活動をスタートさせます。たてわりロングの校外活動後は、校内での活動が続きます。回を重ねるごとに、各学年のねらいが達成できるように指導していきたいと考えています。

そして、5月29日(金)には、「たてわりロング」の活動で、全校で戸山公園へ行きます。

1～6年生のたてわり班では、班の子どもたちに楽しんでもらえるよう、6年生が企画し中心になって遊びます。当日は、地域協働学校の方にもご協力いただき、活動に参加していただきます。

地域の方や異学年と交流することを通じて、児童一人一人が学年に応じた役割を果たしながら、生き生きと活動できるように計画してまいります。

体力向上の取組について

体育的行事委員会

今年度、体力向上の取組として、年間を通して「長なわ」に取り組みます。「運動に親しみ、体力を向上させる」「目標に向けて努力する態度を育てる」等をねらいとし、取組を進めていきます。

具体的には、①毎月月初めに、休み時間等を利用して各学級で長なわに取り組み、②年2回、2週間の「長なわウィーク」を設け、体育の時間等に学級全員で取り組み、という活動です。長なわウィークの最終日には記録会を行い、それぞれの学級で考えたためあての達成を目指します。

早速、本日4月30日(木)より第1回長なわウィークが始まっています。「体を動かすって楽しい!」と感じる児童が増えるよう取り組んでまいりますので、ご家庭でも話題にさせていただけるとありがたいです。